

音の鳴る機能を持つ作品作りを

楽しむ子どもの育成

—試行する活動を生かした土鈴製作を通して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（美術）

氏名 杉浦 大介

本研究では、小学校特別支援学級において、音の鳴る機能を持つ作品作りを楽しむ子どもの育成を目的とした。授業実践では、土鈴という音と形の要素を持つ作品作りを、3つの段階を設定したスモールステップで試行する活動を取り入れ行うこととした。その段階は、①音の鳴る作品の発見、②音の鳴る作品の製作、③形を工夫した音の鳴る作品の製作とした。

その結果、①では、教師が製作の目的を児童に明かさずに製作をさせてしまうことで、児童の興味・関心を高められず、児童が活動を次の段階へ繋げられないという課題が見られた。②では、教師が児童に音の鳴る機能に着目させることで、どうしたら音の鳴り方が変わるのか考えられていた。③では、児童は形を工夫して製作しながらも、音の鳴る機能を持つ作品を作ることができていた。

以上のことから、試行をする活動の場が保障されることで、様々な音の鳴る土鈴を作ることができ、音への興味・関心を高めることができたと考えられる。